



2025年7月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2025年6月12日

上場会社名 株式会社JMホールディングス 上場取引所 東
コード番号 3539 URL <https://jm-holdings.co.jp/>
代表者(役職名) 代表取締役社長(氏名) 境 正博
問合せ先責任者(役職名) 常務取締役管理本部長(氏名) 前田 香織 (TEL) 03(6453)6810
配当支払開始予定日 —
決算補足説明資料作成の有無 : 無
決算説明会開催の有無 : 無 ()

(百万円未満切捨て)

1. 2025年7月期第3四半期の連結業績(2024年8月1日~2025年4月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年7月期第3四半期	138,970	7.4	7,527	1.2	7,616	0.2	4,302	8.8
2024年7月期第3四半期	129,378	14.2	7,441	32.7	7,599	32.3	3,956	28.6

(注) 包括利益 2025年7月期第3四半期 4,257百万円(2.2%) 2024年7月期第3四半期 4,167百万円(31.6%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2025年7月期第3四半期	167.63	—
2024年7月期第3四半期	148.28	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2025年7月期第3四半期	70,814	43,212	60.7
2024年7月期	71,359	43,768	61.1

(参考) 自己資本 2025年7月期第3四半期 43,009百万円 2024年7月期 43,582百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年7月期	—	20.00	—	22.00	42.00
2025年7月期	—	22.00	—		
2025年7月期(予想)				22.00	44.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2025年7月期の連結業績予想(2024年8月1日~2025年7月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	180,000	4.4	9,900	8.2	10,000	7.3	6,200	13.4	232.39

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更 : 無
新規 一社 (社名) 、除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2025年7月期3Q	25,479,500株	2024年7月期	26,679,500株
② 期末自己株式数	2025年7月期3Q	559株	2024年7月期	559株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	2025年7月期3Q	25,667,951株	2024年7月期3Q	26,679,099株

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー : 無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	7
第 3 四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	8
第 3 四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	9
(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

(業績の状況)

当第3四半期連結累計期間（2024年8月1日～2025年4月30日）における我が国経済は、雇用・所得環境の改善が進み、景気は緩やかに改善しておりますが、一方ではウクライナ情勢の長期化、中東情勢の緊迫化に加え、アメリカの経済政策や中国経済の減速等により、景気の先行きは不透明な状況で推移しております。

食品小売業界におきましては、人件費や物流費をはじめとした各種コストの上昇に加え、円安や原材料価格の高騰等により食料品の値上げが続けられたことで、消費者の節約志向、低価格志向が一層高まるなど、厳しい経営環境が続いております。

当第3四半期連結累計期間における経営成績は、スーパーマーケット事業、外食事業の既存店が順調に推移したこと、新規出店した8店舗の売上寄与により、売上高は138,970百万円と前年同四半期に比べ9,592百万円（7.4%）の増収、営業利益は7,527百万円と前年同四半期に比べ86百万円（1.2%）の増益、経常利益は7,616百万円と前年同四半期に比べ17百万円（0.2%）の増益、親会社株主に帰属する四半期純利益は4,302百万円と前年同四半期と比べて346百万円（8.8%）の増益となりました。

当社グループにおける事業セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

(スーパーマーケット事業)

当社グループのスーパーマーケット事業は、6つの店舗業態と青果仲卸事業、米穀小売業で構成されております。

(a)株式会社ジャパンミートが運営する大型商業施設内店舗「ジャパンミート生鮮館」

商圏が広く、集客力のある大型商業施設「ジョイフル本田」などにおいて17店舗展開しております。精肉売場を核とし、青果・鮮魚・惣菜の専門性を強調すること、顧客に幅広く支持されるような商品を売場に展開することで、ファミリー層を中心に楽しくお買い物ができる売場の構築に努めております。

(b)株式会社ジャパンミートが運営する関東圏単独店舗「ジャパンミート卸売市場」、「パワーマート」、「食肉卸売センターMEAT Meet」

関東圏のロードサイドに「ジャパンミート卸売市場」13店舗、「パワーマート」3店舗、「食肉卸売センターMEAT Meet」4店舗を展開しております。これらは「ジャパンミート生鮮館」を小型化した単独店舗であります。生鮮食品の専門性を強調した店舗の特徴を活かし、品揃えや商品力において差別化を図っております。

(c)株式会社花正が運営する都市型ホールセール「肉のハナマサ」

東京都内を中心に業務用スーパー「肉のハナマサ」などを62店舗展開しております。飲食店事業者のプロが日々の仕入先として利用できるよう商品を大容量で販売するとともに、「プロ仕様」というプライベートブランド商品を開発・展開することで特徴を明確にしつつ、一般家庭の顧客の買物需要にも応えられる品揃えをすることで、一般的なスーパーマーケットとは差別化された「都市型ホールセール」を運営しております。

(d)株式会社スーパーみらべるが運営する地域密着型食品スーパー「スーパーみらべる」

東京都北部を中心に地域密着型食品スーパー「スーパーみらべる」を12店舗展開しており、商品調達や販売ノウハウにおいてシナジー効果を発揮してまいります。

(e)有限会社J M青果が運営する青果仲卸事業

J M青果は、茨城県水戸市で青果仲卸事業を営んでおります。当社グループの青果部門の商品調達をバックアップすることにより、青果物の鮮度・価格・品揃えの強化と、商品の安定供給に寄与しております。

(f)株式会社柳田商店が運営する米穀小売業

柳田商店は、茨城県東茨城郡で米穀小売業を営んでおります。当社グループで販売するお米の品質・価格・品揃えをさらに強化できることで安定調達に繋がり、販売数量の増加に寄与しております。

店舗の状況としまして、2024年10月に「肉のハナマサPLUS」九条駅前店（大阪府大阪市）、「肉のハナマサPLUS」大国町店（大阪府大阪市）、2025年1月に「肉のハナマサPLUS」堀江店（大阪府大阪市）、「肉のハナ

マサPLUS」川崎店（神奈川県川崎市）、2月に「肉のハナマサPLUS」日本橋店（大阪府大阪市）、3月に「肉のハナマサPLUS」京橋店（大阪府大阪市）、「肉のハナマサPLUS」千代崎店（大阪府大阪市）を開店いたしました。これにより、当第3四半期連結会計期間末時点におけるスーパーマーケット事業の店舗数は111店舗になりました。

当第3四半期連結累計期間におけるスーパーマーケット事業の経営成績につきましては、売上高は135,529百万円と前年同四半期に比べ9,471百万円（7.5%）の増収、セグメント利益(営業利益)は7,116百万円と前年同四半期と比べ69百万円（1.0%）の増益となりました。

(その他)

その他の事業につきましては、外食事業、イベント関連事業、アウトソーシング事業、施設運営管理事業で構成されております。

(a) 株式会社ジャパンデリカが運営する外食事業「漫遊亭」

外食事業につきましては、主に「焼肉や漫遊亭」を展開しております。得意とする精肉の調達力、ノウハウを活かし、新鮮で高品質な料理を安価でご提供するように努めてまいりました。また、美味しい商品と快適な食事空間を提供するという基本方針のもと、新メニューの開発をすすめ、他店との差別化を図り、お客様が楽しく食事ができる店づくりに努めております。

店舗の状況としまして、2024年11月に「焼肉や漫遊亭」押上店（東京都墨田区）を開店いたしました。これにより、当第3四半期連結会計期間末時点における外食事業の店舗数は19店舗になりました。

(b) AATJ株式会社が展開する「肉フェス」などのイベント関連事業

イベント関連事業につきましては、「肉フェス」など食に関わるイベントの展開、国内外のイベント制作、運営などを行っております。当第3四半期連結累計期間の活動状況といたしまして、「肉フェス2025TOKYOステーキ王決定戦」（東京都江東区）を開催いたしました。今後も食肉及び地域の食文化の魅力を発信してまいります。

(c) 株式会社アクティブマーケティングシステムが展開するアウトソーシング事業

アウトソーシング事業につきましては、スーパーマーケット業界における、レジ業務の受託代行サービスを行っております。スーパーマーケットの実務経験に基づいた独自のノウハウによって、顧客のニーズに応える質の高いサービスを提供してまいります。

(d) 株式会社ニコモールが運営管理するショッピングセンター「ニコモール」

施設運営管理事業につきましては、群馬県太田市のショッピングセンター「ニコモール」の運営管理を行っております。「ニコモール」には株式会社ジャパンミートが運営しております「ジャパンミート生鮮館」新田店をはじめとした各種専門テナントが出店しており、地域の方に欠かせない生活のインフラとしてご愛顧いただいております。

当第3四半期連結累計期間におけるその他事業の経営成績につきましては、売上高は5,512百万円と前年同四半期に比べ314百万円（6.1%）の増収、セグメント利益(営業利益)は445百万円と前年同四半期と比べ29百万円（7.0%）の増益となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産、負債及び純資産の状況)

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度と比べ544百万円減少し、70,814百万円となりました。流動資産は2,328百万円減少、固定資産は1,784百万円増加しております。主な要因は、現金及び預金の減少4,703百万円の方で、棚卸資産の増加1,694百万円、有形固定資産の増加1,542百万円、無形固定資産の増加447百万円によるものであります。

負債につきましては、前連結会計年度と比べ10百万円増加し、27,601百万円となりました。主な要因は、流動負債の減少398百万円の方、長期借入金の返済を含む固定負債の増加408百万円によるものであります。

純資産につきましては、前連結会計年度と比べ555百万円減少し、43,212百万円となりました。主な要因は親会社株主に帰属する四半期純利益の計上4,302百万円の方で、自己株式の消却3,666百万円及び配当金の支払い1,147百万円による利益剰余金の減少510百万円によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

今後の見通しにつきましては、2024年 9 月12日付で発表の「2024年 7 月期 決算短信」の記載から変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2024年 7 月31日)	当第 3 四半期連結会計期間 (2025年 4 月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	22,405	17,702
売掛金	3,544	4,138
棚卸資産	7,631	9,326
その他	2,422	2,507
貸倒引当金	△1	△1
流動資産合計	36,002	33,673
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	14,818	16,345
その他（純額）	9,721	9,736
有形固定資産合計	24,539	26,082
無形固定資産		
のれん	1,487	1,334
その他	782	1,384
無形固定資産合計	2,270	2,718
投資その他の資産		
敷金及び保証金	5,138	5,350
その他	3,421	3,004
貸倒引当金	△13	△13
投資その他の資産合計	8,547	8,340
固定資産合計	35,357	37,141
資産合計	71,359	70,814

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2024年 7 月 31 日)	当第 3 四半期連結会計期間 (2025年 4 月 30 日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	8,452	9,649
短期借入金	3,753	3,553
1年内返済予定の長期借入金	695	760
未払法人税等	2,242	1,294
賞与引当金	406	242
その他	5,513	5,165
流動負債合計	21,063	20,665
固定負債		
長期借入金	3,625	3,505
退職給付に係る負債	688	723
資産除去債務	641	1,200
その他	1,572	1,506
固定負債合計	6,527	6,936
負債合計	27,590	27,601
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,229	2,229
資本剰余金	2,399	2,399
利益剰余金	38,674	38,163
自己株式	△1	△1
株主資本合計	43,301	42,791
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	278	212
退職給付に係る調整累計額	1	5
その他の包括利益累計額合計	280	218
非支配株主持分	185	203
純資産合計	43,768	43,212
負債純資産合計	71,359	70,814

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2023年8月1日 至 2024年4月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2024年8月1日 至 2025年4月30日)
売上高	129,378	138,970
売上原価	92,322	99,380
売上総利益	37,055	39,589
販売費及び一般管理費	29,614	32,062
営業利益	7,441	7,527
営業外収益		
受取ロイヤリティー	15	16
受取手数料	81	25
保険解約返戻金	10	24
その他	90	72
営業外収益合計	198	138
営業外費用		
支払利息	31	42
その他	9	7
営業外費用合計	41	49
経常利益	7,599	7,616
特別損失		
減損損失	170	—
特別損失合計	170	—
税金等調整前四半期純利益	7,428	7,616
法人税、住民税及び事業税	3,559	3,128
法人税等調整額	△115	167
法人税等合計	3,444	3,295
四半期純利益	3,984	4,320
非支配株主に帰属する四半期純利益	28	17
親会社株主に帰属する四半期純利益	3,956	4,302

四半期連結包括利益計算書

第 3 四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第 3 四半期連結累計期間 (自 2023年 8 月 1 日 至 2024年 4 月 30 日)	当第 3 四半期連結累計期間 (自 2024年 8 月 1 日 至 2025年 4 月 30 日)
四半期純利益	3,984	4,320
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	180	△66
退職給付に係る調整額	3	3
その他の包括利益合計	183	△62
四半期包括利益	4,167	4,257
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	4,139	4,239
非支配株主に係る四半期包括利益	28	17

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、2024年9月12日開催の取締役会決議に基づき、自己株式1,200,000株を取得しております。また2024年10月15日付で自己株式1,200,000株の消却を実施しております。この結果、利益剰余金が3,666百万円減少し、当第3四半期連結会計期間末において利益剰余金が38,163百万円となっております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 2023年8月1日 至 2024年4月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント	その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	スーパー マーケット事業				
売上高					
外部顧客への売上高	125,458	3,919	129,378	-	129,378
セグメント間の内部売上高 又は振替高	599	1,277	1,877	△1,877	-
計	126,058	5,197	131,256	△1,877	129,378
セグメント利益	7,047	415	7,462	△21	7,441

- (注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、外食事業、イベント関連事業、アウトソーシング事業、施設運営管理事業を含んでおります。
2. セグメント利益の調整額△21百万円は、セグメント間取引消去額744百万円及び全社費用765百万円が含まれております。全社費用は主に報告セグメントに帰属しない持株会社運営に係る費用であります。
3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第3四半期連結累計期間(自 2024年8月1日 至 2025年4月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント	その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	スーパー マーケット事業				
売上高					
外部顧客への売上高	134,840	4,130	138,970	-	138,970
セグメント間の内部売上高 又は振替高	688	1,382	2,071	△2,071	-
計	135,529	5,512	141,042	△2,071	138,970
セグメント利益	7,116	445	7,561	△33	7,527

- (注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、外食事業、イベント関連事業、アウトソーシング事業、施設運営管理事業を含んでおります。
2. セグメント利益の調整額△33百万円は、セグメント間取引消去額762百万円及び全社費用795百万円が含まれております。全社費用は主に報告セグメントに帰属しない持株会社運営に係る費用であります。
3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第 3 四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、当第 3 四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第 3 四半期連結累計期間 (自 2023年 8 月 1 日 至 2024年 4 月 30 日)	当第 3 四半期連結累計期間 (自 2024年 8 月 1 日 至 2025年 4 月 30 日)
減価償却費	1,592百万円	1,846百万円
のれん償却額	210百万円	153百万円